

令和7年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立宇和津小学校

1 自己評価書

教育目標	「ふるさとを愛し、夢や希望を持ち続け、未来を生き抜く児童」の育成						
基本方針	児童を教育活動の中心に据え、一人一人を生かす教育実践に努めるとともに、家庭・地域に愛され、信頼される学校づくりを目指す。						
本年度重点目標	1 確かな学力の定着と自己肯定感の向上 2 生徒指導の充実 3 特別支援教育の充実 4 ふるさと学習の充実 5 学校運営協議会の充実・発展						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期ののみ	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A	A	
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B B	B	
			家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B	
	③	家庭学習の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B	B	
	④	読書活動の充実	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	(成果と課題) ○昨年度と比較すると、ICT機器を利用して学習する場面が多くなっている。 ○月ごとに委員会活動が啓発を行ったり、学級で呼び掛けたりすることで、図書室の利用率は向上している。 ●学力差があるため、理解の早い児童にとっては、やや物足りなさを感じる場面があった。 (改善策等) ◎学校での読書活動は活発だが、家でも読書するように啓発するとともに、みきん通帳への登録を確実に行う。 ◎全ての児童が意欲的に学習に取り組むために、発展的な課題を用意したり、EILSを今以上に積極的に活用したりする。				
	評価項目						
	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価	
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
				不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
				いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
				関係機関との連携	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A B		
(成果と課題) ○挨拶運動や日々の声掛けで、決まった場所では相手の目を見て、気持ちのよい挨拶ができる児童が増えた。 ○学校全体での情報交換を定期的に行い、情報を共有できたことで、チームで対応することができた。 ●自分のしたことを素直に反省することができず、言い訳をする児童がいる。 (改善策等) ◎自分の行動を振り返る習慣を育てるため、学級で起こる様々なことから、指導と対話を重ねていく。 ◎職員室内の話しやすい雰囲気を生かし、生徒指導を中心としてチームでの対応を継続する。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	B	A
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
(成果と課題) ○業務の効率化が進み、時間にも気持ちにもゆとりができており、児童への対応の時間が確保できた。 ○地域学校協働活動推進員の活動によって、学校と地域の距離が縮まり、数多くの協働活動を実施している。 ●時間外や休日の活動が多く、負担の多い教職員がいる。 (改善策等) ◎ICT機器を効果的に活用し、さらに業務改善を進める。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
				・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題) ○ホームページや学級通信による情報発信が、学校への親近感や信頼感を高めている。 ○地域学校協働活動推進の積極的な活動によって、地域と学校の垣根が低くなっている。 ●学校運営協議会委員が固定化されている。 (改善策等) ◎学校の会計を明朗化するために、事前に学級通信等で知らせ、より信頼される学校とする。 ◎PTAの活動を、時代の変化を見据え、改善を図る。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満